

平成23年 5月12日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520329

研究課題名(和文) 日本現存『白氏文集』那波本諸本の調査収集と諸本の比較研究

研究課題名(英文) Investigation and comparison research on the various books of
BAISHI-Wenji NABO book 白氏文集那波本 in existence in Japan

研究代表者

下定 雅弘 (SHIMOSDA MASAHIRO)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：00157588

研究成果の概要(和文)：

本研究は、江戸時代、那波道圓によって刊行された、『白氏文集』那波本の日本に現存するものを調査し、比較研究して、最善の那波本を決定し、これを影印刊行することに目的があった。3年にわたり、全国の20種近い那波本を比較検討した結果、宮内庁所蔵本が最善のものとの結論を得て、これを影印出版する準備を完了した。

研究成果の概要(英文)：

The BAISHI-Wenji NABO books 白氏文集那波本 was published in Edo period. The purpose of this research was to investigate, to compare the NABO books near by 20 kinds in existence in Japan, and to decide the best one for publication by photograph. Result of having done comparing books for three years, the book that GONGNEITIG 宮内庁 owns is the best one. The preparation for publishing was completed.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	200,000	60,000	260,000
年度			
年度			
総計	1,200,000	360,000	1,560,000

研究分野：六朝と唐の文学

科研費の分科・細目：文学、各国文学・文学論

キーワード：白居易、白氏文集、書誌、那波本、天理大学蔵本、宮内庁蔵本

1. 研究開始当初の背景

背景としては、次のことが指摘できる。

- (1) 白氏の文集は、今日伝わるものを、i 成書の方式(鈔本・刊本・活字本の別)、ii 編集の方式、の2つの角度から整理することができる。i の角度から見れば、中国に伝わる南宋紹興年間に刊行されたいわゆる紹興本・明清に盛行した馬元調刊行のいわゆる馬本は刊本であり、日本で江戸時代に刊行されたいわゆる那波本は活字本であり、日本に伝わる金沢文庫旧蔵のいわゆる金沢文庫本は鈔本である。ii の角度から見れば、紹興本・馬本は「先詩後筆本」と呼ばれ、詩を前に置き文を後に排列する編集方式である。これに対し、那波本と金沢文庫本は、白居易が実際に編集していった順に従って排列しており、「前後続集本」と呼ばれている。
- (2) 「先詩後筆本」は、宋人が刊行の際に、白居易の元来の編次を変えて編集してしまったものであり、白居易の研究を進めていく上では、当然、「前後続集本」によらねばならない。ところが、「前後続集本」のうち、金沢本は全巻がそろっているのではなく、全体の三分の一強が伝わっているにすぎない。これは研究の重要な資料ではあるが、底本として常時利用することはできない。那波本こそは底本として常時用いるにふさわしいが、今日まで、比較的簡単に見ることのできるそれは、四部叢刊に収める那波本の影印である。ところが、これが、那波本とは、部分的だが異同があり、また欠落があり、那波本そのものではない。また従来、陽明文庫蔵那波本の詩の部分だけが、『白氏文集歌詩索引』(平岡武夫, 今井清編, 同朋舎,

1989.10)として刊行されていたが、詩文の全てを含む完全な那波本は、研究者が容易に見ることができる状態になっていない。

- (3) そこで、那波本の、保存がよく、書き入れその他をも考量して、最善の本を選び、これを影印出版することは、斯界(日本中国のみならず欧米の研究者にとっても)の重要な現実的課題になっている。したがって、那波本の影印本が出版されるならば白氏文集の書誌学研究を進めていく上で、基礎的な条件を格段に高めることになる。以上がこの研究の背景である。

2. 研究の目的

- (1) 本研究は、江戸時代、元和4年(1618年)、那波道圓によって刊行された『白氏文集』、いわゆる『白氏文集』の那波本の現存するものを調査し収集し、諸本の本文及び書き入れなどの状態を比較研究した上で、書誌的に見て最善の那波本を見極めることにある。
- (2) これを影印刊行することで、白居易研究の便宜を格段に高め、白居易研究の発展に寄与することができる。

3. 研究の方法

(1)那波本諸本の調査・収集、諸本の比較研究(活字本ゆえ本文についても移動がないかどうか注意が必要、ことに重要なのは書き入れの比較検討である)、善本の選定、解題の作成、影印出版の準備(研究成果公開促進費の申請を含む)等が、作業の主な項目であり、研究の方法である。

(2)各種那波本の所在は、すでに下定雅弘・神鷹徳治が確認していたので、これらの諸本を、所蔵機関に赴き、実見した上でマイクロ

化し、その内の最善本を見極めることに、実際の作業の重点があった。

(3)なお定本の決定にあたっては、本文の完全の度合いとともに、全巻に訓点を施したもののや、書き入れが大量になされているものをも(書き入れ内容の価値を検討して)、候補に入れるべきだと考えていた。この観点により、最終的に宮内庁所蔵本を、影印刊行すべき最善の本と決定したのである。

4. 研究成果

- (1) 本研究は、江戸時代、元和4年(1618)、那波道圓により刊行された『白氏文集』那波本の現存するものを調査収集し、諸本の本文・書き入れなどの状態を比較研究した上で、書誌的に見て、最善の那波本を影印刊行することで、白居易研究の便宜を高め、白居易研究の発展に寄与することが目的だった。
- (2) そのための基礎作業は、平成21年度までにはほぼ終え、①那波本重要諸本をほぼ全て実見調査し、②諸本の比較検討を行い、影印刊行する善本の候補を三本にしぼりこんだ。その第一本は、米沢市立図書館現蔵の本、第二本は天理図書館蔵本。第三本は、宮内庁書陵部現蔵の角倉素庵旧蔵本である。第一本、米沢本は書き入れや虫損がほとんど無く初印本中の善本である。ただし、書き入れが無い。第二本は、天理図書館蔵本。これは九条家蔵の素性のよい本で書きこみがない。第三本は、宮内庁本蔵本。特徴は角倉素庵が、京都の識者による旧鈔本『白氏文集』との校異の情報を全巻に書き入れている点にある。この中には現在失われている旧鈔本もあるので、これ自身貴重な旧鈔本文本である。
- (3) 最終年度である22年度には、この三本を

種々の面から検討し、影印本として何れを採用するか決定することが課題だった。22年度には、那波本『白氏文集』諸本とともに、那波本の底本といわれている朝鮮本諸本の調査も行った。とりわけ、下定と神鷹の2名で天理図書館所蔵の那波本と朝鮮本の書誌的調査を行ったのは影印すべき最善の本を決定する上で極めて重要だった。天理図書館所蔵の那波本は、九条家旧蔵本と云われているので、書き入れ等を期待したのであるが、全くなかった。かつ、全体として補修がしてあるものの、虫損が多く、テキストとしては良好なものではないと判断された。また本年度には、新たに早稲田大学図書館に那波本が1本あることを確認し、同大学がインターネット上で公開している「古典籍総合データベース」で全容を確認することができた。早稲田大学図書館所蔵那波本は、旧鈔本の本文による書き入れはあるものの、巻3・4の新樂府のみで、巻12の長恨歌等には全く書き入れはなかった。改めて旧鈔本との校異の結果を全面的に書きこんでいる宮内庁所蔵の那波本が、そのテキストの精美さとともに、書誌的見地からして最も優れているのを確認することができた。

- (4) 最後に、本研究の成果を公開するために応募していた、平成23年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「宮内庁所蔵那波本『白氏文集』」が内定したので、付記する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計9件)

- 1、神鷹徳治、白居易の大集の二つの書名について―『白氏文集』と『白氏長慶集』―、明治大学文学部紀要、有、112、2010、pp.1-6
- 2、下定雅弘、『麗情集』「長恨歌伝」と『文集』「長恨歌伝」、中国文史論叢、有、6、2010、pp.73-102

- 3、下定雅弘、解説「長恨歌」—兼述日本現段階「長恨歌」研究概況—、南開学報（哲学社会科学版）、有、209、2009、pp.72-81
- 4、下定雅弘、日本における白居易の研究—二〇〇六年—、白居易研究年報、有、9、2008、pp.306-343
- 5、神鷹徳治、『源氏物語』と『唐詩解』、アジア遊学、有、116、2008、pp.62-71

〔学会発表〕（計6件）

- 1、神鷹徳治、『文集』は〈もんじゅう〉か〈ぶんじゅう〉か、近代語研究会(第二百五十三回)、2010.4.26、明治大学（駿河台・文学部）
- 2、下定雅弘、「長恨歌」の主題—日本における「長恨歌」研究の現段階—、韓国中語中文学会 2009年国際学術研討会、2009.11.21、韓国ソウル誠信女子大学
- 3、神鷹徳治、日本伝存の特異な漢籍—旧鈔本について—、第2回明治大学・高麗大学大学院生研究交流プログラム、2009.9.3、高麗大学校民族文化研究院
- 4、神鷹徳治、明末刊『唐詩解』所収の『長恨歌』本文について、九州中国学会、2008.5.10、佐賀大学

〔図書〕（計3件）

- 1、下定雅弘、神鷹徳治、船田想、唐音統籤所載白氏詩篇諸本対照表稿、2011、101
- 2、下定雅弘、角川学芸出版、白楽天、2011、254

6. 研究組織

(1) 研究代表者

下定 雅弘 (SHIMOSDA MASAHIRO)
岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：00157588

(2) 研究分担者

神鷹 徳治 (KAMITAKA TOKUHARU)
明治大学・文学部・教授
研究者番号：00233940

(3) 連携研究者